OG インタビュー報告

実施日：2023 年 1 月 8 日 17:00~18:00

I. 属性（インタビュー対象者を「A」とする）

1. 性別: 女性（2023 年 1 月現在、育休取得中の一児の母）
2. 学部: 文系学部
3. 明治大学卒業年: 2014 年

II. 就活について

1. 就活を意識し始めたきっかけ：
   ① 大学 3 年 11～12 月頃、A が 1 浪で明治大学に入学したため、ストレートで大学入学した中学・高校の友人から就活の話を雑談の中で聞く機会があった。
   ② 大学 3 年生の同時期、学部ゼミの中で、就活を終えた 4 年生の先輩と就活の進め方や進路について共有する機会があった。
2. 就活を始めた頃に就職先に求めたこと：
   ①勤務地が実家から近いこと、②自分が興味のある旅行業界、③バイトしていた教育業界、④女性がキャリアを積める会社
3. 企業合同説明会の活用方法と気づいた点：
   ① 少しでも興味を持った企業の話は聞いてみること。その上で「自分が興味ある、ない」の仕分けとして活用した。
   例えば、周りの友人が志望していた業界・職種に銀行や SE 職があったが、説明会を聞いた上で自分には向いていないと判断できた。話を聞く中で、自分に合うか否かが明確化された（働き方や待遇、会社の風土や雰囲気など）。
   ② 合同説明、企業説明、就活サイトを見聞きする中で新たに気づくこともあった。例えば、インフラ業界であれば長く勤めることができるのではないか、基盤がしっかりしている会社の方が良いのではないか、など。
4. 企業の見つけ方:
   ①就活サイトを使って「業界またはグループ会社名」で検索、②明治大学のキャリアセンターの資料（※１）、③明治大学内で行われた合同説明会を通して探した（※2）。
   ※1： キャリアセンター内に卒業生の就活記録が業界別にまとめられている資料がある。その資料からどの企業に明大生が採用されているのか、面接にてどのような質問内容があったのかを学んだ。
   ※2： 複数企業の話を聞くことができた。学内に来てくれる企業ということで採用への期待感が上がった。
5. エントリーシート（ES）を提出した企業数： 約 50 社
   ES を提出する上で考えていた点は、①数打てば当たること（※３）、②後で後悔しな

いためにESを提出すること（※４）。

※３：　行きたい企業であっても、企業側の求める人材と異なれば落ちてしまうことはよくあることである。あまり落ち込まず、次に進むことが大切だと思う。

※４：　友人の中には、各業界大手ばかり受けており、４月後半になっても内定が出ておらず、就活に苦戦している人も多数いた。就活後半は募集企業が少なくなる。前半にESをできるだけ提出することが大事だったと実感した。

6. 就活のとき知っていたら（気づいていたら）良かったこと:

① 昇給したときの給与

就活のとき初任給は気にするが、キャリアアップに関する昇給のスピードや、評価基準、10年後の社員の平均給与などについて考えても良かったと思う。

7. 後輩に向けた就活に関するアドバイス：

① 興味のある業界や職種を見つけて欲しい

実際にAが入社した職場で、入社しすぐ辞める後輩は、仕事に興味関心を持てない人が多かった。少しでも興味のあることを仕事にした方が、仕事のやりがいを見つけやすく、会社を続ける気持ちにつながると思う。

III. 就職後の企業について

1. 業界：　旅行代理店
2. 採用形態：　エリア採用（近郊の支店や本社の異動は有　※自宅から通勤圏内）
3. 男女比率：　２（男）：８（女）
4. 業務内容：　①来店顧客への旅行相談や提案業務　②店舗会計業務（入社３年目から兼務）
5. 入社後の業務に関するギャップや苦労した点:

① 限られた時間内で（約30分が基本)、初対面となるお客様の旅行ニーズを理解し提案すること。具体的に言うと、お客様がどんな人柄なのか分からない状態から、どこで、何をしたいかを把握し、具体的な旅行提案をすること。同時にお客様と会話をしながら、パソコンに顧客情報などを入力することが大変だった。

接客回数を積むことで、自身の旅行に関する提案知識が付くことやパソコンなどの予約端末操作に慣れた。今振り返ると知識があることで様々なお客に対して、短時間で適切に提案することができるようになった。

② 当時、インバウンド需要のため、外国人の顧客対応が想像していたよりも多かったこと。英語が苦手なこともあり、言語の違いからコミュニケーションを取ることに苦労した。

6. ストレス発散方法：

① 同期との飲み会の中で、お互い励まし合い支え合っていた。「同期がいなかったら続けることはできなかったかもしれない」。また、先輩への業務に関する悩み相談など。

7.　会社風土や制度について入社後に感じた点（良い・悪い点）

①　良いと感じた点：

1)　店舗の従業員全員の有給消化が 100%であったこと。店舗人員に余力があったと感じたことはないが、職場全員で相互に業務をフォローし合う雰囲気が、有給消化できる環境に繋がっていたと思う。

例えば、有給消化できていない社員がいた場合、有給失効直前の 3 月（繁忙期の 1 つ）に無理やり休みにしてでも消化するよう現場で取り組んでいた。就活説明会時にも「ほぼ有給は消化できます」と謳っていたが、実際入社してからも、その発言は本当だったと実感した。

②　悪いと感じた点：

1)　賃金形態が年功序列であったこと。役職昇進が最短でも数年経ってからと決まっており、成果を出しても勤続年数が足かせとなっていたことへの不満があった。しかし、会社として、途中から「頑張ったら、頑張っただけ認めていく」社風に変わるなど、時代の変化の後押しもあったことで、最短年数よりも 2 年早く昇進することができた。

昇進したことを振り返ると、結果的に自分に合った会社だと気づいた。社員数がより多い会社の場合、自分の頑張りはそこまで評価されなかったのではないかと思う。

2)　リモートワークができない仕事だとコロナを転機に感じた。

8.　A が経験した出産育休について：

①　A 自身が出産に伴い、産前産後休暇を取る際、「有給休暇+産前産後休暇（産休）」の連休で取得することができた。その取得の背景には職場の理解が大きかったと思われる。

1)　「入社後に良いと感じた点」の有給休暇の項目で触れたように、職場全員がフォローし合う環境が当たり前でであったこと。

2)　育休に関しては、職場の先輩女性も同様に、「有給＋産休」を取得する前例があり職場では当然のことであった。また、職場に育休を取得している人や短時間勤務者が常にいたため、「自分が結婚して子供ができたらお休みに入って復帰したら時短で働くっていう未来が描きやすかった」。

3)　女性の多い職場のため、産休や育休に対して理解されやすくお互い様な環境であった。加えて、管理者を含む男性社員からも同様に出産育児に関して理解を得られる会社であった。

②　産休に伴う A 自身の業務引継ぎについては、旅行提案をする接客業務は全ての社員が行う業務のため、引き継ぎは必要なかった一方で、会計業務は後輩に引き継ぎをした。A は会計業務を任せられる後輩を支店長に推薦するなど、自ら率先して業務の引き継

ぎを行なっていた。

9.　A が考える働くこととは：

現在、育休期間中であり、将来的に復職を希望している。子育ては子育てで大変だが社会から隔離されている感じがする。働いていた方が、誰かのため、世の中のために自分がなっていると実感する。

復職理由として、①今の会社が働きやすいと感じ、②業務内容にやりがいを感じている。例えば、A は育休取得前に、顔馴染みのお客様から花やプレゼントを頂いた。「そのお客様が（自分の職場復帰を）待ってくれている。（A 自身も）休む時は寂しかった。」A がお客様から頼られていることや、直接感謝された様々な経験を通して働くことのやりがいを感じている。今は子育てをしつつ、復帰後の仕事と育児の両立に向けて準備をしている。